

地元・地域・ご近所で
困っている方が居る

社会的要因

少子・超高齢化
核家族化
未婚者の増加
老夫婦世帯の増加 など

地域的要因

ニュータウンの高齢化
地域産業が少ない
ベットタウン

何とか助けたい
【お節介したい】

大きなことは出来ないけれど
困った方に手を差し出したい
【みなともネット】発足

【問題点は数々挙がるけど・・・】

- ・ 同じ団地の高齢者の方の支援が少なくて困っている
- ・ 貧困の問題は水面下で増えているよう
- ・ 地域で住むための情報が手に入りにくい
- ・ 子育て世代も同じように困っている
- ・ 支援の欲しい人と支援する側がつながりにくい
- ・ それぞれの相談専門機関をもっと知って欲しい
- ・ 住んでいても知らないことばかり

考えてばかりでは
何も解決しない

何かしていこう

加えて

新型コロナウイルスが各問題を増悪させているかも

- ・ 外出の減少
- ・ 対人関係の悪化
- ・ 各種活動の自粛
- ・ 感染による自粛
- ・ 仕事の減少
- ・ 施設等の利用減
- ・ 井戸端会議の減少
- ・ などなど

【これまでの活動は】

- ・ メンバーの間で地域で起こっていることを共有
(メンバーでの講演会や定例会で行う)
- ・ 地域の高齢や子どもの貧困対応として物品の提供
(直接又はホームページで「あげ隊」の実施)
- ・ 高齢者の終活の一助に認知症と相続をテーマに講演会開催
(「第一回 みんなの集い」)

「お節介」は
なかなか届かないね！

大学の
実践例から

【これまでの活動から】

- ・ 新型コロナで集合型の情報伝達がやりにくい
- ・ オンラインでは高齢者が参加しにくい
- ・ 1回や数回の講演会ではなかなか進まない
- ・ 個人で出来ることが少ないので大規模にしにくい
- ・ 地域の情報って案外届かないね
- ・ 堺の広報誌もあんまり見ていないみたい
- ・ ひとりが持つてる情報はそんなにないよ

情報伝達方法として使えそう

- ・ SNS等のオンラインツールが使えそう
- ・ 少ない情報でもみんなが発信すればそれなりに
- ・ 情報発信にかかる費用が軽い
- ・ 慣れれば簡単に情報発信できる
- ・ 高齢者でも興味はあるが電話以外使わない

高齢者向けスマホ教室して
SNSを使って情報発信しよう！

【問題点として】

- ・ スマホが使えないのが恥ずかしい
- ・ 同世代に教えてもらうのは嫌！
- ・ 普段は何に使うの？

【高齢者が参加したい教室にするために】

- ・ 使い慣れている地域や大学生の方など、若い方との世代間交流を題材に教室を構成
- ・ 講習後は地域情報を定期的に発信する
- ・ 営業色を出来るだけ薄くする
- ・ 使うソフトは予め固定するなど参加しやすい環境を作る

【スマホを通して】

地域情報や会の活動情報を提供
果ては、

- ・ 情報提供者として社会参加に
- ・ 大規模災害時等の連絡ツールとして 活用

↓ 次ページに講習会案

高齢者向けスマホ教室会（案）

【開催概要】

会場：〇〇〇〇会館
日付：令和 〇〇年 〇〇月 〇〇日（〇）
時間：〇〇：〇〇 ～ 〇〇：〇〇（24H表記）
参加対象者：65歳以上のスマホ初心者 〇〇名
協力者・団体：大学生ボランティア 〇〇名
 中学校生ボランティア 〇〇名
共催・後援・協賛団体：〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇

【開催の背景】

- ・泉北ニュータウン地域で核家族化、高齢のみ・高齢独居世帯が増えている
- ・支援を必要とする人達に、安心安全に生活するための情報が届きにくい社会環境になっている
- ・地域やご近所さんを支える方が減ってきている
- ・新型コロナウイルス流行による行動制限が、地域情報の伝達を阻害している

【計画作成に至った経過】

- ・感染対策などにより集合型による情報伝達だけでは伝え切れない
- ・講習会は再々開催するのも大変
- ・ホームページへの掲載はメンバーの技量的に無理がある ← 見てくれる人も少ない
- ・大学の実践例から、情報発信や交流にスマホを活用してみてもどうか
- ・高齢者向けのスマホ教室を開催し、スマホで地域や会の情報提供を行っていききたい
- ・ただ、若い人ほど高齢者はスマホを使っているとは言いがたい状況

【開催の目的】

- 対内的目的
 - ・地域で困っている方々に生活に役立つ情報を届けたい
 - ・地域で眠っている「お節介」な方を掘り起こして協力者になってもらいたい
- 対外的目的
 - ・情報の取得ツールとしてスマホを使えるようになる
 - ・学生さん等のボランティア参加により世代間交流する場が生まれる
 - ・受講者は普段聞き慣れない若者の考え方や行動に触れることで良い刺激になる
 - ・ボランティア参加で高齢者の歴史観や行動特性などを体験出来る

【工夫するべきポイント】

- ・営利的な勧誘を極力排除する（使用ツールは別）
- ・技術指導だけでなく、高齢者が参加したいと思える内容を含める
- ・学生ボランティアの参加が望めるのであれば、世代間交流が出来るような内容にする
- ・参加者やボランティアの個人情報には配慮する（交流に拒否権を発動できるように）
- ・1回では習熟できないので、複数回の開催やオンラインでの支援の工夫を
- ・情報提供やコミュニケーションのルールを作っておく
- ・その他

【今後の発展】

- ・参加者でグループを作り、地域や会の情報を定期的に発信していく
- ・定期的な返信促進により、スマホ活用の習熟度を上げていく
- ・地域コミュニケーションツールとして活用
- ・電話以外に大規模災害時発生等での安否確認ツールとして
- ・情報を受け取るだけでなく、発信する側になることで家に居ながら社会参加
- ・その他

↓ 次ページに実施概要（未作成）